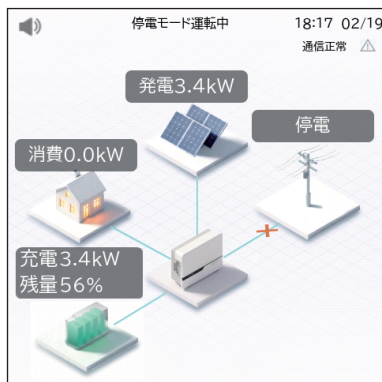


4.2 停電時の使い方（自立運転）

停電を検知すると、(「[コールドスタンバイ](#)」(→P.17) 状態以外の場合) システムは自動的に停電モードへ切り替わり、自立運転を開始します。特別な操作をしなくても、接続された電気機器を使用できます。

ホーム画面には「停電モード運転中」と表示されます。また、4秒ごとに通知音が鳴ります。左上のベルマークをタップすると、マークに斜線が表示され、通知音を止めることができます。



自立運転中は、太陽光発電電力を負荷に供給し、余剰電力がある場合は蓄電池に充電します。太陽光発電量が少なくなり、負荷の消費電力をまかないきれなくなった場合は、蓄電池から放電します。蓄電池に蓄えた電力は、定格の範囲内で負荷へ供給されます。

蓄電池の過放電を防ぐため、停電時に蓄電池残量が「停電モード放電停止容量」に達すると、放電を停止します。その後、蓄電池残量が「停電モード復帰容量」まで回復すると、自立運転を再開します。

※ 停電モードの設定変更は、施工店のみ可能です。

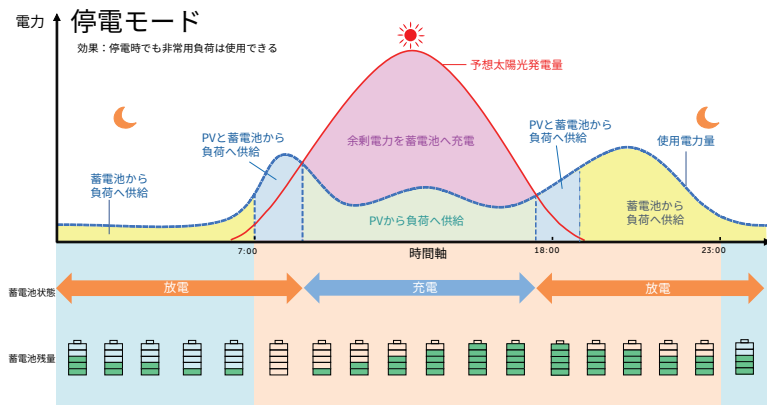


図 4-6 停電モード

■ 復電時の操作

停電後に復電しても、特別な操作は不要です。

電力会社との協議で定められた時間内（最大5分）は、復電後も停電時の動作を継続します。その時間を経過すると、蓄電システムは通常時の運転モードに戻ります。

■ 停電時、以下の電気機器を使用しない、または使用に注意してください

- 医療機器や、途中で電源が切れると支障のある機器（パソコンなど）は使用しないでください

太陽光発電電力または蓄電池の電力が不足すると、蓄電システムが停止し、接続している機器の電源が切れる場合があります。

その際、データの消失や機器の停止が発生するおそれがあります。

これらの機器を使用する場合は、蓄電システムと機器の間に無停電電源装置（UPS）を設置する必要があります。

本システム用の UPS などの販売はありません。

- 灯油やガスを使用する暖房機器、電熱機器など、火災を引き起こすおそれのある機器に注意してください

本製品は自動で復電するため、これらの機器が地震などで転倒している場合、火災などの二次被害につながるおそれがあります。

- その他、電源が切れると生命や財産に損害を受けるおそれのある機器は使用しないでください

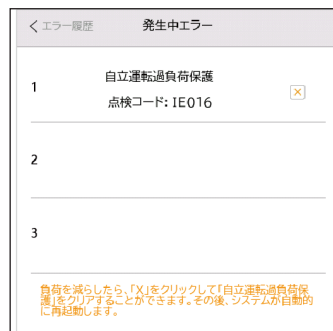
停電時の使用にあたっては、電源が切れた場合のリスクを十分に考慮してください。

■ 停電時過負荷エラーの復旧手順

電気の使いすぎや、使用中の機器の特性により、定格を超える電力が一定時間使用されると、室内リモコンに「自立運転過負荷保護」エラーが表示され、エラーが連続で3回表示されると、給電を停止します。以下の手順で復旧してください。

- (1) 室内リモコンに「自立運転過負荷保護」エラーが表示されていることを確認します。
- (2) 分電盤の負荷分岐ブレーカーをオフにする、または電気製品のコンセントを抜くなどして、重要負荷で使用している電気機器を減らします。
- (3) 室内リモコンの「自立運転過負荷保護」エラー表示をタップして、エラーを消去します。
- (4) システムが正常に再起動することを確認します。

消費電力の大きい機器を使用する際は、ほかの接続機器を減らすなどの調整を行ってください。

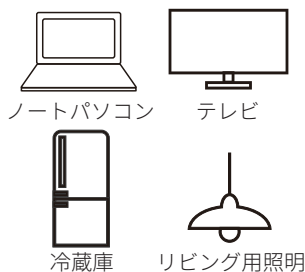


■ 停電時の連続使用時間の目安※

接続家電製品例

- ・ 冷蔵庫：120 W
- ・ 液晶テレビ：170 W
- ・ リビング用 LED シーリングライト：100 W
- ・ ノートパソコン、ルーターなど：30 W
- ・ 携帯電話の充電（2 台）：10 W

合計：約430W



システムごとの目安

HWJ-BT1-H5B05 / H9B05	約10時間
HWJ-BT1-H5B10 / H9B10	約20時間
HWJ-BT1-H5B15 / H9B15	約30時間
HWJ-BT1-H5B20 / H9B20	約40時間

※ 連続使用時間はおおよその目安です。実際の使用時間は、接続する機器の消費電力や使用状況、蓄電池残量、天候などの条件により異なります。

※ 非常用負荷での使用を想定した目安です。